



足助中学校の今と昔 その3(卒業式)

卒業証書授与式は、おそらく昔からの様式をそのままに実施しているので、皆さんのイメージしているものと変わらないと思います。式場は、紅白幕で囲んでいます。後輩たちのつくったステンドグラスが飾られます。本年度は71名の卒業生ですから、体育館も保護者席を含め、前半分のスペースで納まっています。そこが、寂しいところです。卒業生の歌は、『道』。EXILEの曲ですが、学年テーマにしてきた言葉で合唱曲になっていたので選びました。その辺りが昔とは違うところです。

足助中学校 校長 藤嶋力央

足助の春のイベント

巴川 アマゴ釣り解禁

3月1日(金)~

昨年の釣果はいかがでしたか？今年もアマゴ釣り解禁日がやってきました。鮎は6月下旬以降に解禁の予定です。今年も釣りに来ていただくのをお待ちしています。

カタクリ見ごろ

3月中旬～下旬

「春の妖精」とも言われる可愛らしいカタクリの花が見ごろを迎えます。温かい昼下がりに訪れると、綺麗に花を開かせたカタクリが楽しめます。カタクリの後は、山桜やモミジの新緑が楽しめます。

足助の春祭り

4月14日(日)

「女の子の祭り」ともいわれ、造花で美しく飾られた花車で女の子がお囃子を奏でます。表紙の写真は新町の花車の様子です。春の華やかなお祭りに是非いらして下さい。

高橋竹山 with 小田朋美ライブ

足助中学校 体育館

5月9日(木) 13時(予定)~

二代目高橋竹山の津軽三味線と小田朋美さんのピアノ・コーラスが足助中学校で聴ける！足助に縁のある方ならどなたでも参加可能。同級生同士で懐かしの中学校に足を運んでは？問合せは、足助中学校(0565-62-0227)

足助ルネッサンス

5月3日(金)～5月5日(日)

お馴染みのアマゴ釣りのほかに、今回は特別に足助の古い町並みの中で、働く車体験コーナーなども行います。ご家族揃ってぜひお越しください。

たんこりんのキャンドルナイト

6月8日(土)

たんこりんでスローな夜を楽しみませんか。電気の消えた夜の町並みを楽しみながら省エネを考える機会として、「たんこりん」を一夜だけ灯します。



-編集後記-

あすけ通信第参考号で「自分だけの美しい故郷の景色」を募集しました。ご応募いただいた方の思い出を紹介しますね！

■足助大橋から見た香嵐渓：バイパスが出来る前に住んでいた所から見えていた景色です。※昔は正月に橋よりよくたこ上げをしていました。又、夏はホタルが家の中にまで入って来ました。／■こもでしの滝：小学校の時、みんなで自転車で行った。大冒険の末たどりついた絶景だった。…美しい思い出かも…／■足中上空より：中2の10月で転校して來てすぐの立志式で「パイロットになる」と志を立ててから約19年過ぎ、ようやく故郷に錦を飾ることができました。岐阜～東京の立川へ向かう途中に足助上空を通過しました。私のような転校生は根付いた故郷というものがいたため、「あすけ通信」第1号を送付していただいたときは嬉しかったです。足助の活性化を遠方より祈念致します。

みなさん、ありがとうございます！いろんな場所に、それぞれの思い出が詰まっているんですね。そして、立志式のお話は感動的でしたね。みんなの立志の言葉は何だったでしょう？

関連する写真を、ブログとFacebookで紹介していますので「あすけ通信」で検索してみてくださいね！(た)

あすけ通信/vol.4

あすけ通信メルマガ版

※無料メールマガジンのため、オフィシャルマガジンが配信されることがあります。ご不要の方は右側QRコードにアクセスして解除してください。

※登録する際は、メルマガ配信サイトの利用規約に同意の上、登録してください。



☆Blog、Twitter、Facebookもあるよ!!☆



もうすぐです。

お山の木々は「ぐっとむすんだ」枝先を

ゆっくりひらきますよ。

2013年立春の頃



2月9日(土)から1ヶ月間、足助の町並みで開催された「中馬のおひなさん」について、足助観光協会会長の鱸 雅守さんにお話をうかがいました。鱸さんは福岡のご出身で大学進学とともに上京し、(社)日本観光協会に就職されたそうです。昭和59年頃、足助町役場にあった観光協会事務局を独立させる際に足助にいらっしゃいました。現在は中立町にお住まいです。足助に来ようと思った決め手をお尋ねしたところ「いろんなところに行く機会があったのですが、最初に足助に来たときに、この町はほんとにおもしろい!という印象を持ったからです。」とのことでした。そんな鱸さんのお話を紹介しますね! (た)

一鱸さんのお話一

中馬のおひなさんは今年で15回目になります。足助資料館に600体保存してあった土びなを何とか活用しようとしたのがきっかけでした。土びなをどこかに展示しようと考えていたら本町区民館を使わせてもらえることになり、あとはとにかくおひなさんを町沿いに並べようということになりました。でもそんな場所はないので、アット(Asuke Tourism21世紀俱楽部)のメンバーで「それぞれの家のおひなさんを通りに向かって並べてくれませんか。」とお願いして並べてもらったのがはじまりです。

最初は展示箇所も15軒程で期間は9日間でしたね。それでも3000人くらいのお客さんが来てくださって、こういうことをすればお客様が来るのかっていうことをみんなが感じられたわけです。次の年は60軒で、3年目には100軒、今は140軒程になっています。1ヶ月間にいらっしゃるお客様は5万人前後で、多いときには8万人くらいありました。

町の人たちもお客様によくあいさつをしてくださって、「こんにちは。どちらから来たの?」「お茶飲んでってね。」とか、さりげない気遣いみたいなものがすごくありました。お客様からも「ここへ来るとなんかあったかいし楽しいね。」ってよく言われましたよ。楽しくてウキウキするし来る人も喜んでくれる、そういうのが本当の観光なのですよ。若い子もよく手伝いに帰ってくるし、足助の観光って一番良い形ですね。たんこりんでも、何かをやるからお願いしますって言ったらみなさんが協力してくださいますよ。この町はそういう素材を持っているから、きっかけとか、よしやろうっていう人が出してくればうまく流れていきます。

今足助は、おひなさんが終わればカタクリの花があって、すぐにゴールデンウィークですよね。8月はたんこりんがあって、10月はお祭り、11月は香嵐渓というように結構いろいろあるんですよ。理想を言うと、もう少しその間の隙間を埋めて1年間をつないでいければこんなに良いことはないですね。30代、40代くらいの次世代の考え方で仕掛けて行って欲しいですね。

あすっこ紹介

四人目 まる八 三代目 深見一寿さん(35歳)

あつ子さん(23歳)



車の修理、ウズラやイノシシの飼育、本格的な溶接、興味を持ったらやらざにはいられない。何屋なんだ?とヤンチャに豪快に自らを苦笑するのは、山のさかな屋さんまる八(旅館業兼飲食店)の3代目、深見一寿さん。祖父がはじめた養殖業は、現在は業界では珍しい淡水魚専門店となった。20年物のりっぱなチョウザメが店の前の生簀に泳ぐ。

足助中学校卒業後、猿投農林に進学。間伐や間引き、シイタケの菌打ち、現在を見越した進路選択であった。寄り道が大好きで3年生で自転車通学に。友だちとバスの時間を気にすることなく毎日気の向くまま寄り道をした。

高校卒業後、知立の調理師専門学校に自宅から通った。調理師免許を持って就職したのは市内大手企業のカフェテリア。3,000人分のランチを既製品を使わずに10人で用意した。時間のロスを出さないことを常に考えていた。10人前の鉄のフライパンを左右1つずつ持ち、20人前のピカタを同時に返す技は先輩たちからも一目置かれた。小学校6年間往復8kmの徒歩通学、中学校3年間のバスケ部での練習、高校時代の往復40kmの自転車通学で鍛えた体のなせる技であった。

カフェテリアで8年を勤めあげた頃、豊田市に合併する前に店を改装する計画がにわかにまとまった。大型自動車免許も制度の改定前に取得を考えていた。2つのタイミングが重なり、2005年愛・地球博の年に家業まる八を継いだ。

山のさかな屋さんはプライベートでも大の釣り好き。マイボートと共にどこまでも出掛ける。近場では三河湖で一日のんびり釣り糸を垂らしたり、浜名湖でグレやアジと遊ぶ。名古屋港ではウナギを夜間3時間で20本から30本を捕獲、釣り仲間からウナギ仙人の称号をもらった。仕事を切り離して出かけるが、予約など電話はどこにいても応対する。

近所に住んでいたあつ子さんとの出会いは、一寿さん18歳、あつ子さん6歳の時。その頃一寿さんは、年の離れた弟を保育園に送る際、時々あつ子さん(当時は保育園の年長児)をいっしょに送っていた。交流は一度途切れるが、10年後高校1年生になったあつ子さんが、まる八にアルバイトに来るようになり再会。当時の印象は互いに最悪。一寿さんは、自分が父親と真剣にお店のことで意見を戦わす姿に、あつ子さんが冷めた視線を投げると感じていた。

ずっと話すことのなかった二人が、あつ子さんの高校卒業後になぜかおつきあいをすることになる。「すごく楽しそうに釣りの話をするからついて行ってみたいと思った。」すべてがその瞬間からはじまった。キューピッドの計らいは全く粒である。

穏やかに静かに愛を育み、2011年、震災の1週間後にゴールインとなった。以来仲良くまる八を切り盛りしている。

1月の第7回お客様感謝祭では時期限定の生のキャビアとチョウザメ料理を振る舞った。ウナギは夏の値上がり前に是非賞味してほしい。蛍ウォッキングもおすすめ。現在「お宿開業30周年記念ご優待!!」平日宿泊プランを開催中。詳しくはWebSite(<http://www.maruhati.gr.jp/>)で。

自分の色を持ったお店がたくさんある足助の中で、まる八でしか食べられないニジマスを提供できるようになりたい。観光的な事にも目を向け、新しい事にも取り組みたい。そして足助に生まれ育った事に誇りを持ってここで生きていきたい。

自然体がまぶしくて、「ありがとう」と思わずこぼれた。

新成人を祝う会



1月13日(日)に、足助交流館にて「新成人を祝う会」が開催され、成人の門出が盛大に祝われた。

平成17年から新成人による実行委員会形式にて開催されている。今回も、総勢17名の実行委員が、勉強、バイトなどの合間をぬって半年越しで作り上げた。

「まとまらない。」「男だらけ。」「鈴木亮介がうるさい!」という苦労話(?)もありながら、「ノリが良い。」「岐阜や知多からでもすぐに集まって飲む。」という足助の友達同士ならではの仲の良さで開催までこぎつけた。

成人を迎えた皆さんには、これからも足助の友達同士の繋がりを糧に、未来を切り開いていって欲しい。

本当に成人おめでとう!! (け)

